

議案第36号
公の施設（宝塚市立文化芸術センター及び宝塚文化芸術センター庭園）の指定管理者
の指定について

資料1-1 指定管理者選定委員会の議事録

第2回 宝塚市立文化芸術センター及び宝塚文化芸術センター庭園
指定管理者選定委員会 議事録

1 日時

平成30年（2018年）11月29日（木）13時半から18時半まで

2 場所

宝塚市役所3階 研修室及び3-3会議室

3 出席者

(1) 委員 久委員長、梅田委員、菅谷委員、赤澤委員、泉委員、越智委員、高木委員

(2) 事務局 産業文化部 福永部長

〃 文化芸術施設及び庭園整備担当 数田次長、岡本課長

〃 宝のまち創造室 政処室長

〃 宝のまち創造室文化政策課 坂田課長、前川係長、夏梅係長、
西岡係員

都市安全部 尾崎部長

〃 生活安全室 江崎室長

〃 生活安全室公園河川課 中村課長、高野係長、大崎係長、田中係員

4 内容

(1) 申請状況について

事務局より、9月28日（金）から11月1日（木）までの期間、指定申請書を受け
付け、3者から申請があった旨説明する。

ア A事業者

イ 宝塚みらい創造ファクトリー

ウ B事業者

また、すべての代表構成員及び構成員について欠格事項の有無を確認し、問題がな
かったことを報告する。

(2) 申請者の経営状況について

委員より、別紙「財務分析の簡単な説明」及び「財務諸表の状況表」をもって、す
べての代表構成員及び構成員の経営状況について報告があり、いずれの団体も指定管
理者の候補者になるにあたって経営状況上問題が無いとの説明がある。

(3) 提案内容に対する質疑

(略)

(4) 審査

※以下、A 事業者を「A」と、宝塚みらい創造ファクトリーを「宝塚みらい創造 F」と、B 事業者を「B」という。

委員 : Bについては、キーワードは網羅しているが、具体性と提案内容の裏付けの点でどうかと感じた。Aについては、印象として地味だった。また、展覧事業の内容がアニメと漫画に偏っていた。手塚治虫を意識したものだと考えるが、新施設については、それだけでいいのかという疑問を感じた。運営面に関しても、市内のあらゆる施設を網羅し、その総合力でやっていくという提案があったものの、専門的な見地からみると、この人員で展示事業やその他提案があった事業を実施できるかという、難しいだろうと思った。それが結果的に点数に繋がったものとする。

委員 : Bについては、プレゼンテーション内容から実績と人数主義という点を感じられ、また、質問に対しても、宝塚の独自性が踏まえた回答ができていなかった。Aについては、展示事業が新聞社などからコンテンツを買ってくるものばかりで、自主企画が無かった。また、発信が弱いと感じた。今後、新しい人たちが入ってくるイメージが湧かなかった。宝塚みらい創造 F については、自主企画でやっていこうとする姿勢が評価できた。また、庭園に関する提案も居心地の良い空間が作られていて、魅力的だった。Aも庭園に関する提案がアーティスティックで良かったが、アートとの関係性などが見えてこなかった。市民サポーターに関する提案も、Bは公募すると言っていた一方、宝塚みらい創造 F はキーとなる市民にアプローチして、順々に広げていきますと説明しており、正当なプロセスを踏んでいると感じた。

委員 : 宝塚みらい創造 F については、全体を通じて、地域や市民との繋がりが見えず、結果的に点数が低くなった。Bは上手くパッケージできているが、同じく、市のことを知らないという印象だった。一方、Aは地域のことをよく知っていた。既にやっている内容と重複する提案が多かったものの、次こそはちゃんとやってくれるのではないかと期待も込めて高い評価点をつけさせてもらった。

委員 : Aについては、(略)に対する質疑の中で正直な回答と感じられなかった。メインは庭園で、地元の人に任せたいという思いがあったものの、大丈夫だろうかという気持ちになってしまった。宝塚みらい創造 F については、総括責任者の方の経歴が浅く、代表構成員の GPMO については平城宮跡歴史公園で子会社をつくって、そこに管理運営を任せるなど不安な点があったものの、質疑の際に大阪ガスの方が上手にフォローしてくれていたため、人材配置や運営に関しても、今後上手くフォローしてくれるのではないかと感じ、結果的に宝塚みらい創造 F が一番高い評価になった。

委員 : A の評価が低くなった。事業計画書を見たときに、宝塚みらい創造 F の提案が

一番わかりやすかった。次に、Bの提案が良かった。しかし、プレゼンテーションの内容を聞いているうちに、Bの評価が下がっていった。Aについては、既存の事業と重複することが非常に多い。宝塚のことをよく知っているはずなのに、それを踏まえた新しい提案が無かった。今までのやり方で来て、新施設を任せられた時に、次のステップに進めるかどうかという不安感があり、評価につながった。

委員 : Aの評価が一番高かった。初め、Aの提案を聞いたとき、あまりかなと思ったが、続く2つを聞いたときに不安になった。宝塚みらい創造FもBも、外からコンテンツを持ってくる提案で、どこでも一緒という印象を持った。Aは質疑の受け答えで、期待できるというか、一緒に考えていけると感触をもった。新しい施設ということを考えた場合に、お任せするのであれば、宝塚みらい創造Fの方が上手くやってくれるのだろう。(略)

委員 : ほとんど委員と同じような評価である。Bは論外で、あとはAか宝塚みらい創造Fで若干の差があった。Aの企画内容について、今のところは問題がある。他の項目で加点した。宝塚みらい創造Fは一定のレベルまでいっているが、一つ不安に感じたのが、質疑の際に全員がバラバラで回答していたことである。今後、誰が責任をもって全体を取り仕切っていくのか見えにくかった。さらに、シビアな見方をすると、展示事業も(略)斬新さとユニークさに欠ける。宝塚みらい創造Fが指定管理者になったとしても、もう少し頑張ってもらいたい。Aは、市とのパートナーシップを考えたときに、市のこともよく知っているし、市内の他の施設との連携など、市もやり易いと考えた。

委員 : Aに対する評価が委員によって異なっている。

委員 : Aについては、今の評価というより、今後の伸び代に期待している。

委員 : 質疑に対しての回答を重視するとAに、紙ベースで考えると宝塚みらい創造Fになる。

委員 : 市民目線で見たとときに宝塚市民は文化に対する意識が低いと考える。Aはそのことを理解していると思うので、今後の伸び代に期待している。

委員 : Aについては誰が来るのか予測できる。宝塚みらい創造Fについては5つのグループを総括できるのか不安に感じる部分はある。

委員 : 先ほどのGPMOの担当者が執り仕切るのか。

委員 : 実質は総括責任者が執り仕切り、大阪ガスが管理運営していくことになるかと考える。

委員 : 今の評価点だと宝塚みらい創造Fが指定管理者の候補者となるが、それで良いか。

委員 : Aの伸び代については、展覧会の内容等はセンスの問題もあるので、そういう人材が既にいるとか、今後、雇用する計画があるのであれば別だが、今の人材がそのままだとすれば、伸び代があるとは言えないのではないかと。伸び代に期待するからには、具体的なものが必要ではないか。

委員 : 市が学芸員を雇用したとのことだが、その学芸員は新施設に対してどう関わるのか。

- 事務局 : あくまで市の職員として関わることになる。基本的には企画内容等については指定管理者に任せることにはなるが、その提案に対して、専門的な見地に立って意見を述べていくことになる。
- 委員 : その意味では、指定管理者側が新しいことを提案して、やっていけるかどうかということになる。
- 委員 : 任せて安心は宝塚みらい創造 F で、一緒に育てるのであれば A ということになる。
- 委員 : 宝塚みらい創造 F が指定管理者になった方が、多様性が生まれる。A が指定管理者になったとしても、今のメンバーでは管理運営できない。新たに雇用する学芸員が提案に書かれていないので。
- 委員 : それぞれの専門的な見地から意見交換していただいたが、宝塚みらい創造 F を候補者とすることで問題ないか。点数を変更される方は修正いただきたい。

～再集計～

- 委員 : それでは、宝塚みらい創造 F が候補者、A が次点者となるので、それぞれの選定理由について、先程の意見交換を踏まえて、まとめさせていただく。宝塚みらい創造 F について、1つ目は、安定性。実績もありつつ、すべての項目において安定性の高い提案があった。2つ目は、すべての項目にわたって、バランスの良い提案があった。3つ目は、特に庭園部分に係る提案が魅力的であった。一方、JVということもあって、誰が責任をもって管理運営していくのか明確にしてもらいたい。次に、A について、1つ目は、宝塚の地域性に理解があった。2つ目に市民との連携について魅力的な提案があった。一方、学芸員が定まっていないことと、そのせいもあって企画面で不十分な点があった。また、宝塚みらい創造 F については、付帯意見として、一人で学芸員を兼ねながら総括責任者だけで総括することは難しいと考えるので、人材育成も含めて組織としての連続性を確保してもらいたい。加えて、もっと地域のことや市民のことを理解してもらい、市民との連携を充実してもらうことで、地域性のある良い提案になると考える。下手すると、監修の先生に全て任せてしまうことにもなりかねないので、施設の柱はきちっと明確に共有してもらいたい。
- 委員 : オープンスペースの活用方法について、日頃は、芝生に椅子を置く提案しかなかったので、日常使いをどうするのか考えてもらいたい。イベント開催時は問題ないと思うが、エコミュージアムなど、ここに来れば宝塚の魅力を感じられるという構想もあったので、そういった取組も今後の協議の中で進めていってもらいたい。
- 委員 : 具体的には、西谷の人たちがここで物を売られていたり、地場産業の物が売られても良いと思う。
- 委員 : 賛助会員の年会費(略)は、実現されるのか。あれは魅力的な提案だったが。
- 委員 : 質疑の中で委員が言っていたようにメリハリをつけても良いとは思っている。
- 委員 : いくら安いといっても、魅力的でないと行かない。

- 委員 : 付帯意見といっても、重たいものではなく、アドバイスとして事業者伝えてもらえたら良い。
- 事務局 : 事務局が選定理由及び付帯意見をまとめた答申案を作成するので、各委員に確認いただき、最終稿を委員長に確認いただく形で問題ないか。
- 委員 : 問題ない。

以上